

臨床検査の精度管理

臨床検査の世界には「精度管理」というとても重要な作業があります。一般の方には、全く全然これっぽっちも馴染みのない言葉です。臨床検査の世界は、今やスピードとコストが求められる時代になり、この「精度管理」をちゃんとするために経営と進歩とモラルの狭間で苦しんでいるのが実情です。

検査精度は年々高感度になり、例えば薬物検査では、東京ドーム1杯分の水に角砂糖が1個溶けていることがわかるっていう感度になりました。医師というものは、臨床検査技師の報告を信じるか信じないか二者択一をします。ほぼ全員が信じて診断と治療に進みます。

例えば、妊娠反応検査の精度が低かったらどうでしょう。妊娠反応は、実は万が一（1万回に1回）でも間違った結果を出すことは許されません。1万回に1回のミスとは1日100名の検査をして、100日に1人の割合で結果を間違えることです。100日に一人の割合で誤診をする医者がある病院は、とんでもない噂がたつでしょう。妊娠反応だけでなくエイズ検査や覚せい剤検査など、判定次第で暮らしや人生が変わる検査項目は結構多いのです。

検査の世界は、形を判断する世界（形態検査）と、数値で表わす世界（定量検査）があります。形態検査は経験的な信頼性を基準に進められ、定量検査は統計学的に信頼性を求めて進められます。健康成人の値を基準値と称して患者様の健康状態を比較するのです。

例えば、総コレステロールの値が250mg/dlだったとすると、基準値は120以上220未満なので「コレステロールがちょっと高いですね」と指摘されるわけです。しかし、その250の値の方は、実際は210なのかもしれません。本当の値は神様しかわからないのです。神様しか分からない本当の値が標的の真ん中だとすると、全ての矢をど真ん中に射ることは不可能です。

定量検査の世界では、100発射って95発が標的のどこかに当たればよいという世界なのです。おまけに、個々の患者様には個体差があるので、平常時は260という値の方もいらっしゃいますので、いつも診てくれる医師の診察が肝心かもしれません。

あと、ヒトが関わる間違いがあります。例えば、集団検診での尿検査は当日出さない方が必ずいます。並んだ検尿カップを単に機械的に並べて処理をすると受診者と検尿にズレが起こります。尿糖が正常だったために糖尿病が悪化したり、健康な人が、糖尿病治療をするはめになる事故が生まれます。

また、ヒトの手で血液試験管に番号や名前を書くと、1なのか7なのか、6というシールが逆に貼られて9になったりします。氏名は大抵カナ入力です。「アとマとスとヌ」、「シとミとツ」、「ワとフとクとケとカ」、「エとコとユ」、「セとヤとヒ」、「ソとン」、「ケとチとテ」など判別困難な字をキーボードで入力します。なので、「6番アユカワ ユミコ」が「9番スエカワ コシエ」と訳の分からない表記になってしまう可能性があるのです。

簡単にミスが起こらないシステムにすることが精度管理では重要です。検体の取り違えをゼロにし、真の値に近い結果を出す努力をして、高い評価と信頼を得るわけです。

たとえコストがかかっても確かな結果を出すよう、精度管理を重ねることが肝要です。